



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年10月31日

上場会社名 虹技株式会社 上場取引所 東
コード番号 5603 URL <https://www.kogi.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）山本 幹雄
問合せ先責任者 （役職名）専務取締役総務担当 （氏名）谷岡 宗 TEL 079-236-3221
半期報告書提出予定日 2025年11月12日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切り捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	12,841	△0.6	447	△24.2	443	△22.3	313	46.5
2025年3月期中間期	12,924	2.7	590	141.7	569	196.8	213	15.5

（注）包括利益 2026年3月期中間期 15百万円（△98.1%） 2025年3月期中間期 777百万円（△32.2%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	95.58	—
2025年3月期中間期	65.35	—

（注）2025年3月期末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年3月期中間期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期中間期	34,019	17,881	42.3	4,380.09
2025年3月期	33,714	18,048	42.6	4,391.17

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 14,376百万円 2025年3月期 14,358百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	60.00	60.00
2026年3月期	—	0.00			
2026年3月期（予想）			—	50.00	50.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,760	△2.1	780	△30.2	740	△34.7	500	△37.4	152.65

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期中間期	3,362,163株	2025年3月期	3,362,163株
2026年3月期中間期	79,867株	2025年3月期	92,311株
2026年3月期中間期	3,275,428株	2025年3月期中間期	3,269,855株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前中間連結会計期間に係る数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要に支えられ、経済活動の緩やかな回復を見せたものの、物価高騰に伴う個人消費の落ち込み、アメリカの関税政策の動向、金融資本市場の変動による影響など、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このようなもとで当社グループは、『“Kai (甲斐・解)” を見出す』をキーワードに、①省人化、②脱炭素社会に向けて、③人材育成、の3点を重点課題に設定した、第8次3カ年計画をスタートさせ、より強固な経営基盤の構築と成長戦略の具現化を目指して、製品の販売価格は正による収益の確保ならびにコスト改善諸施策の一層の推進に努めた結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高 128億4千1百万円(前年同期比 0.6%減)、営業利益 4億4千7百万円(前年同期比 24.2%減)、経常利益 4億4千3百万円(前年同期比 22.3%減)、親会社株主に帰属する中間純利益 3億1千3百万円(前年同期比 46.5%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①Casting Field

鋳型は、造船向け鍛鋼用鋳型が好調で、売上高は、前年同期を上回りました。ロールは、主要顧客先の国内高炉メーカーおよび電炉メーカー向け案件が堅調であった一方、輸出案件の需要が伸び悩み、売上高は、前年同期並みで推移しました。自動車用プレス金型鋳物は、欧米のBEV自動車向けの需要が伸び悩んだことに加え、関税問題による新型車開発計画の延期や中止などにより、売上高は、前年同期を大きく下回りました。大型産業機械用鋳物は、船用、発電プラント用減速機向けが好調で、売上高は、前年同期を上回りました。小型鋳物は、下水道・地中線鉄蓋関係、機械・上水関係、土木関係ともに堅調で、売上高は、前年同期並みで推移しました。デンスバーは、海外向けの需要が伸び悩んだものの、全体的には堅調に推移し、売上高は、前年同期並みで推移しました。海外事業の天津虹岡鋳鋼有限公司、南通虹岡鋳鋼有限公司は、中国景気の悪化や競合他社との競争激化が続く中、主要顧客先の需要が好調で、売上高は、前年同期を上回りました。国内の連結子会社である株式会社小口合金鋳造所は、半導体製造装置向けの需要が伸び悩み、売上高は、前年同期を下回りました。

この結果、当事業の売上高は、116億6千8百万円(前年同期比 0.2%増)、セグメント利益 5億7千6百万円(前年同期比 15.8%減)となりました。

②Environment Field・環境エンジニアリング

環境装置事業は、前年同期同様に大型の工事案件がなく、売上高は、前年同期並みで推移しました。送風機は、ごみ焼却炉向けが好調に推移したものの、バイオマス向けが伸び悩み、売上高は、前年同期を下回りました。環境・省エネ商品のトランスベクターは、半導体向けの需要が増加し、売上高は、前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は、7億7千5百万円(前年同期比 10.4%減)、セグメント損失 △6千1百万円(前年同期 セグメント損失△2千1百万円)となりました。

③Environment Field・機能材料

KCメタルファイバーは、鉄道用摩擦材、産業用摩擦材は堅調でしたが、自動車摩擦材向けの需要が伸び悩み、売上高は、前年同期並みで推移しました。

この結果、当事業の売上高は、3億8千3百万円(前年同期比 5.3%減)、セグメント利益 1千3百万円(前年同期比 30.5%減)となりました。

④その他の事業

当事業の売上高は、1千3百万円(前年同期比 1.3%減)、セグメント損失 △3百万円(前年同期 セグメント損失△0百万円)となりました。

（2）当中間期の財政状態の概況

（資産）

当中間連結会計期間末における流動資産は、199億4千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億5千4百万円減少いたしました。これは、主として現金及び預金が4億5千5百万円減少したことなどによります。

固定資産は、140億7千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億6千万円増加いたしました。これは、主として機械装置及び運搬具が4億9百万円増加したことなどによります。

この結果、総資産は、340億1千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億5百万円増加いたしました。

（負債）

当中間連結会計期間末における流動負債は、126億5千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億2千8百万円増加いたしました。これは、主として短期借入金が3億2千5百万円増加したことなどによります。

固定負債は、34億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億5千5百万円減少いたしました。これは、主として長期借入金が2億7千9百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、161億3千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億7千3百万円増加いたしました。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産合計は、178億8千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億6千7百万円減少いたしました。

この結果、自己資本比率は42.3%（前連結会計年度末は42.6%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期通期の業績予想につきましては、本日発表の「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」のとおり、売上高につきましては、国内事業においては予想を下回る見通しですが、中国国内における自動車用プレス金型鑄物の生産・販売事業が、厳しい事業環境が継続する中、予想に比し順調に推移したことにより、前回予想を上回る見通しとなりました。利益につきましては、海外事業の上振れに加えて、国内事業においても、コスト改善のための諸施策および製品の販売価格是正への注力により、懸念していたベースアップによる人件費の増加の影響を吸収し、当初の計画を上回る見込みとなりました。これらの結果、売上高、利益とも前回発表の業績予想から上方修正しております。

なお、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,168	2,712
受取手形、売掛金及び契約資産	10,712	10,707
電子記録債権	2,234	2,383
商品及び製品	1,462	1,391
仕掛品	1,257	1,364
原材料及び貯蔵品	1,321	1,184
その他	140	198
流動資産合計	20,297	19,943
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,879	2,774
機械装置及び運搬具(純額)	3,591	4,001
土地	1,256	1,340
その他(純額)	1,479	1,525
有形固定資産合計	9,207	9,642
無形固定資産		
のれん	79	71
その他	422	391
無形固定資産合計	502	462
投資その他の資産		
投資有価証券	3,477	3,751
退職給付に係る資産	65	113
長期貸付金	4	4
繰延税金資産	13	13
その他	145	88
投資その他の資産合計	3,706	3,971
固定資産合計	13,416	14,076
資産合計	33,714	34,019

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,099	2,991
短期借入金	6,422	6,748
未払法人税等	156	69
賞与引当金	340	313
災害損失引当金	50	—
その他	1,956	2,532
流動負債合計	12,026	12,654
固定負債		
長期借入金	2,410	2,130
繰延税金負債	969	1,089
その他	259	264
固定負債合計	3,639	3,483
負債合計	15,665	16,138
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,002	2,002
資本剰余金	602	602
利益剰余金	8,768	8,885
自己株式	△99	△85
株主資本合計	11,274	11,405
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,704	1,904
繰延ヘッジ損益	△0	△1
為替換算調整勘定	1,072	811
退職給付に係る調整累計額	306	256
その他の包括利益累計額合計	3,083	2,971
非支配株主持分	3,689	3,504
純資産合計	18,048	17,881
負債純資産合計	33,714	34,019

（2）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）	当中間連結会計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）
売上高	12,924	12,841
売上原価	10,784	10,703
売上総利益	2,140	2,138
販売費及び一般管理費	1,549	1,690
営業利益	590	447
営業外収益		
受取利息及び配当金	68	74
その他	49	45
営業外収益合計	118	119
営業外費用		
支払利息	66	72
支払手数料	31	31
その他	41	20
営業外費用合計	139	123
経常利益	569	443
特別利益		
投資有価証券売却益	—	31
特別利益合計	—	31
特別損失		
災害損失引当金繰入額	161	—
災害による損失	75	—
特別損失合計	237	—
税金等調整前中間純利益	332	474
法人税、住民税及び事業税	82	51
法人税等調整額	18	44
法人税等合計	101	95
中間純利益	230	378
非支配株主に帰属する中間純利益	17	65
親会社株主に帰属する中間純利益	213	313

(中間連結包括利益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	230	378
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△158	200
繰延ヘッジ損益	20	△0
為替換算調整勘定	719	△512
退職給付に係る調整額	△34	△50
その他の包括利益合計	546	△363
中間包括利益	777	15
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	407	200
非支配株主に係る中間包括利益	369	△185

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	332	474
減価償却費	712	779
のれん償却額	7	7
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△15	△22
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△13	—
災害損失引当金の増減額 (△は減少)	161	△50
災害による損失	75	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△107	△117
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△31
受取利息及び受取配当金	△68	△74
支払利息	66	72
支払手数料	31	31
売上債権の増減額 (△は増加)	2,167	△588
棚卸資産の増減額 (△は増加)	15	82
仕入債務の増減額 (△は減少)	41	△55
その他	△152	220
小計	3,253	727
利息及び配当金の受取額	68	74
利息の支払額	△66	△74
災害による損失の支払額	△75	—
法人税等の支払額	△134	△136
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,046	590
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△513	△1,012
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	—	52
貸付金の回収による収入	0	0
その他	△7	△9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△520	△969
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2,202	466
長期借入金の返済による支出	△293	△279
支払手数料の支出	△4	△6
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△196	△196
その他	△17	△16
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,714	△33
現金及び現金同等物に係る換算差額	23	△43
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△165	△455
現金及び現金同等物の期首残高	2,633	3,158
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,467	2,702

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Casting Field	Environment Field・環境 エンジニア リング	Environment Field・機能 材料	計				
売上高								
鋳物	11,580	—	—	11,580	—	11,580	—	11,580
環境エンジニアリング・環境	—	220	—	220	—	220	—	220
環境エンジニアリング・機械	—	601	—	601	—	601	—	601
機能材料	—	—	405	405	—	405	—	405
ソーラー	—	44	—	44	—	44	—	44
その他	59	—	—	59	13	72	—	72
顧客との契約から生じる収益	11,639	865	405	12,910	13	12,924	—	12,924
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,639	865	405	12,910	13	12,924	—	12,924
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	0	—	0	—	0	△0	—
計	11,639	865	405	12,910	13	12,924	△0	12,924
セグメント利益又は損失(△)	684	△21	19	682	△0	682	△112	569

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△112百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社
管理部門にかかる費用が△133百万円、営業外収益が82百万円、営業外費用が△60百万円含まれてお
ります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前中間連結会
計期間に係る数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Casting Field	Environment Field・環境 エンジニア リング	Environment Field・機能 材料	計				
売上高								
鋳物	11,595	—	—	11,595	—	11,595	—	11,595
環境エンジニアリング・環境	—	212	—	212	—	212	—	212
環境エンジニアリング・機械	—	514	—	514	—	514	—	514
機能材料	—	—	383	383	—	383	—	383
ソーラー	—	48	—	48	—	48	—	48
その他	73	—	—	73	13	86	—	86
顧客との契約から生じる収益	11,668	775	383	12,828	13	12,841	—	12,841
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,668	775	383	12,828	13	12,841	—	12,841
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	2	—	2	—	2	△2	—
計	11,668	778	383	12,830	13	12,844	△2	12,841
セグメント利益又は損失(△)	576	△61	13	528	△3	525	△82	443

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△82百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が△137百万円、営業外収益が106百万円、営業外費用が△51百万円含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

該当事項はありません。